

主人公達が人狼ゲームをするようですよ

れぐるぐる

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この方達が人狼ゲームをするようです

俺ガイル 八幡+雪乃

物語シリーズ 阿良々木+忍

劣等生 達也+深雪

SAO キリト+アスナ

リゼロ スバル+レム

このすば カズマ+めぐみん

とある 当麻+美琴

ダンまち ベル+ヘステイア

Charlotte 有宇+奈緒

進行役 ノゲノラ テト+空白

作者が好きなキャラ達なので、好き嫌いが別れますが、お気に召して貰えると幸いです！

目次

| | |
|------------------|---|
| まずは自己紹介から | 1 |
| 交流会・・・？俺ガイルのターン！ | 6 |

まずは自己紹介から

テト「第1回！」

空白「皆でワイワイ！」

ノゲノラ組「「人狼ゲーム！」」

他一同『：：』

「なんか今日しけてんな」

「にい：： 司会：： 下手：：」

「しししし仕方ないだろ!? コミュ障には難易度高すぎるんだよ！」

「君達：： 仮にも国王だろう? もう少し威厳を持とうよ：：」

「あの一、突然で悪いけど、なんで俺らはここにいるんだ?」

「キリト君、敬語忘れてるよ」

「しまった! えーと：： いるんですか?」

「よくぞ聞いてくれました! それについては僕が説明しようと思うよ! 君達には、人狼ゲームをやってもらいたくて僕が色んな世界から呼び出したんだ! 手紙、貰ったでしょ? そういうことだよ!」

「ちよつとテトくん! そんなくだらない理由でボク達を呼んだのかい? ボクとベルくんには、2人でファミリアデートをする約束があったのに〜!」

「神様：： そんな約束した覚えはないですよ」

「そ、そうだったかい!? コ、コホン。とりあえず、ボク達を早く帰してくれないかな?」

「それはできないかなあ：： でも安心してよ! 人狼ゲームが終われば、君達は元の世界に返してあげるからさ!」

「はあ：： ならいいか。さっさと帰らないとまた小町に怒られちゃう：：」

「少し黙りなさい、シス谷くん。腐った目がより腐っていて不快だわ」
（我が主様よ、なんだあの腐った目をした男は。儂はお前様以外に眷属を作ったのは400年前で最後なのじゃが：：）

（思っても言っつてはいけないことと悪い事があるんだぞ、忍。帰ったらミスドに連れて行ってやるから我慢しろ）

(ドーナツ！ドーナツのために頑張るのじゃ！)

「はいはい終わり終わり、司会のこと忘れてたらいつまでたつても終わらないぞー」

「にいの影… 薄いのが悪い…」

「ちよつと白ちゃん!? そんなこと言ったらお兄ちゃん傷つくぞ…」

「君達までふざけだしたらキリがないよ… とりあえず、みんなで自己紹介しようよ！質問はあとからね！まずは僕達からだね。さつきそこのちびっ子が言っていたけど、僕の名前はテト、神様だよ！」

「ちびっ子じゃないよ！ボクはれっきとした神様なんだからね？」

テト「そういうことにしとくよ。それじゃあゲームーのお二人さん、自己紹介よろしくね」

「テト… まあいいか。と、とりあえず、俺の名前は空。ええええーと、よ、よろしくな」

「にい… コミュ障発揮しないで… 白… よろしく…」

空「まあという訳だ。今回の進行役をやらせてもらう。GMって憧れてたんだよなあ…！」

白「にい… しつかり… ね」

テト「二人ともありがとう！じゃあ次は、そこの腐った目の人達からどうぞ！」

「手紙に名前書いてあったし、俺らの名前わかってんだろ… まあいい。俺の名前は比企谷八幡。奉仕部って部活に入っている。んで、こっちが…」

「ゴミがや君に紹介されなくても自分でできるわ」

八幡「へいへい、悪う御座いましたね…」

「全く… 私の名前は雪ノ下雪乃。奉仕部の部長をやっているわ。今回はお手柔らかにお願いします」

テト「二人ともありがとう！では次、吸血鬼2人組、どうぞ！」

『吸血鬼…!?!』

「その紹介は少しどうかと思うよ神様さん… 僕の名前は阿良々木暦。訳あって吸血鬼だけど襲いはしないよ」

「かかつ、お前様にもまともな自己紹介ができるのじゃな。そうじゃ、

儂の名前は忍野忍じゃ。またの名をキスショット・アセロラオリオン・ハートアンダーブレードという。気軽に吸血鬼様、と呼んでくれればいいぞ」

暦「それはどうかと思うぞ、忍…。」

忍「かつ、じょーくというものじゃよ、じょーく。では皆の者、よろしく頼むぞ」

テト「あ、ありがとう吸血鬼2人組さん… じゃ、じゃあ次は、兄妹のお二人さんお願いします」

「やつと出番が来ましたよ！お兄様！」

「そうはしゃぐな深雪。俺の名前は司波達也だ。よろしく頼む」

「私の名前は司波深雪です！皆様、今日はよろしくお願いしますね！」

テト「ありがとう二人とも！これでやつと半分だね… じゃあ次、キリトかなーやつぱりwwwさんお願いします」

「それはやめてくれ!!」

「じゃ、じゃあデスゲームのお二人さん、よろしくお願いします」

「こんな所でもネタにされるなんて… 俺の名前はキリト… 桐々谷和人だ。えーと、よろしくな！」

「私の名前は結城明日奈よ。キリト… 和人さんと仲良くしてあげてね、男友達が増やせるって張り切ってたから」

キリト「あ、アスナ！それは言わない約束だろ… コ、コホン。まあ今日はよろしく」

テト「熟年夫婦なお二人さん、ありがとう！」

キリト「もうやめてくれ…。」

アスナ「熟年夫婦…。」

テト「じゃあ次、ゼロから始めたお二人さん、お願いします！」

「やつと俺たちのターンだぞレム！…ここはちゃんと自己紹介しないと！俺の名前はナツキスバル！よ、よろしくにゃ！」

「噛んでますよスバルくん。レムの名前はレムと申します。スバルくんのメイドをやっています。今日はスバルくんのこと、よろしくお願いしますね」

スバル「レムの名前はレム… なんか出会った頃思い出すな、レム」

レム「そうですね、スバルくん。あの頃は色々ありましたが、今では・・・」

テト「ちよつとお二人さん、ストップストップ！は、はい、ありがとう・・・。じ、じゃあ次は、キチガイ二人組だね。どうぞ」

「おいしいいい!?誰がキチガイだ誰が!」

「そうですよ!カズマはキチガイかもしれないませんが私は違います!ええ断じて違いますとも!・・・カズマカズマ」

「なんだよめぐみん・・・。あつ、俺の名前はサトウカズマです、よろしくね」

「ちよつと爆裂魔法を撃ちたくなくなってきたんですが・・・。あつコホン、我が名はめぐみん!紅魔族随一の魔法の使い手で爆裂魔法を操るもの!よろしくお願いしますね!」

カズマ「バカかお前!こんな所でぶつばなしていいわけないだろ!?やっぱリエリス様を連れてきた方が良かったんじゃない?」

めぐみん「なんでするかカズマ、喧嘩を売ってるんですか!?!なら買ってやりましょう、ええ買いますとも!さあやりましょう!」

テト「ちよつとお二人さん!?!夫婦喧嘩は後でやってください!はあ・・・。もう次行きましょう次。色々チートなお二人さんどうぞ」

「俺は別にチートではないと思うんだけどな・・・。俺の名前は上条当麻!幻想殺しって右手を持つてる。よろしくな」

「私の名前は御坂美琴よ。はあ・・・。なんでアンタと人狼ゲームなんかやらなくちゃいけないのよ」

当麻「それ今言うことじゃないだろ!?!酷くないですかね美琴さん?」

テト「ありがとう二人とも!それじゃあお次はファミリアなお二人さんよろしくお願いします!」

「えーと、みなさんこんにちわ!ベル・クラネルです!よろしくお願ひします!」

「やあ皆!ボクの名前はヘスティアだよ!あのちびテトとは一応知り合いなんだけど・・・。まあ腐れ縁ってやつかな!よろしくね!」

テト「ありがとう!ベル君とちびっ子!では最後に」

ヘステイア「覚えといてね？テトくん」

テト「何も聞こえないなー。じゃあ能力者のお二人さんお願いしますー！」

「僕の名前は乙坂有宇。自他ともに認める「エセ」優等生…。おい友利！お前余計な事言ってるんじゃないやねえ！」

「何言ってるんですか？全て事実でしょう。あつ、私の名前は友利奈緒です。よろしくお願いしますね」

有宇「ぐっ…。紳士でイケメンな有宇くんと呼ばれよう大作戦が…。なんで邪魔するんだ友利！」

奈緒「私以外の誰かに貴方のこと好きになられたら困るからですよ…。(ボソ)」

有宇「ん？今なんて言ったんだ？」

奈緒「なんでもないですよーだ」

テト「あ、ありがとう！それじゃあ自己紹介はこれで終わりで！次は交流会…。だけど長くなったので今回はここまで！」

他一同『今回って何？』

テト「気にしたら負けです！それじゃあ皆さん、せーの！」

『あでゅー！』

交流会…？ 俺ガイルのターン！

テト「じゃあ皆、今から交流会を始めていくよ！交流会は、簡単に言えば質問コーナーだね。まずは、俺ガイル組の2人に質問していいう！」

八幡「まずは俺らに対してか… トップバッターは中々緊張する「はいはい！儂！儂から質問してもいいかの!？」は、早いな… ど、どうぞ」

忍「じゃあ質問じゃ。なんでそんなに目が腐ってるのじゃ？」

曆「おい忍！人には聞いちゃいけないことだってあるんだぞ…？」

八幡「いやどつちかって言うのと貴方の方が失礼じゃないですかね… まあ、この目はなんていうか… 気づいたらこうなっていましたね」

キリト（この目… S A Oに囚われる前の俺と同じ目をしてるな… 話だけでも聞いてみるか…）

キリト「なあ八幡、少し俺と話さないか？」

八幡「えっ、まあいいっすけど…」

キリト「よし、決まりだな。俺の事はキリトって呼んでくれ。あと、敬語もいらさないよ。じゃあ、少し出ようか。テトさん、少し八幡お借りしますよ。雪乃さんもいいですか？」

テト「んー、僕はまあいいよ！」

雪乃「私も別にいいわよ。好きに持って行って頂戴」

八幡「いやいや、なに？雪ノ下さん？俺の扱い酷すぎやしませんかね…」

空「じゃあ俺も行っていいか？」

八幡「えっ？いやちよつと待って」

カズマ「俺もいいか？お前からはなんか同族な匂いがするんだよなあ…」

スバル「奇遇だな！俺もそんな気がするんだ！俺もいいか!？」

ベル「僕もいいですか!？」

曆「なら僕も参加させてもらうよ」

当麻「じゃあ俺も」

達也「俺も少し気になっていたんだ。行かせてもらうとしよう」

有宇「えっ？これも俺が行く流れじゃね…えーと、じゃあ俺も…」

奈緒「貴方は邪魔になりそうなので居といてください…と言いた
いところですが、友達が少ない貴方への絶好のチャンスですからね。
行ってきていいですよ」

有宇「なに？お前俺のお母さんか何かかよ!？」

奈緒「お母さんとは失礼な。私はまだピッチピチですし可愛いです
よ」（彼女がいいだなんて言えない…）

ヒロインズ一同（あれ、奈緒ちゃん凄い可愛いんだけど…）

テト「じゃあ、こつからは男女別れてになりそうだね！それじゃあ、
これからは各々でよろしくね！じゃ、後でね〜」

ー 少年少女交流中ー

（このシーンは番外編にて。お楽しみに！）

キリト「八幡…お前…大変だったんだな…大丈夫だ、これから
は俺もいるから…な？」

ヒロインズ一同『。』。『。』。『。』

八幡「もういっぱいはいだよ…ん？どうしたんだ雪ノ下。そ
んなに顔赤くして」

雪乃「いえ…なんでもないの。本当よ？本当になんでもない
わ…だから気にしないで頂戴、デリがや君」

八幡「デリカシーのデリだよな？大丈夫だよな？」

雪乃「なに勘違いしてるのよ…これだからエロ谷くんは…」

八幡「もうやめてくれ…」

他一同（この2人…入る隙がない…）

テト「コ、コホン。二人とも、二人の世界に入らない入らない。そ
れじゃあ、八幡君と雪乃ちゃんのこと、みんな分かったよね？それ
じゃあ次は、吸血鬼組の2人だね！」

曆「その呼称、やめてくれないかい？あらぬ誤解が…」

忍「かかつ、あながち間違いではないであろう？我が主様よ」
曆「そうだけでも… 気にしたら負け… か。じゃあ次は頑張ろうか」

テト「そうそう、気にしたら負けだよ。じゃあ今回はこれで終わり！じゃあ今回の主役のお二人さん、締めのでゆー、よろしくね！」

八幡「まじかよ… ぼっちにはハードル高いぞ…」

キリト「八幡！お前はぼっちじゃないぞ！俺達がいるから」

八幡「わかった！わかったから… はあ… まあやるか、雪ノ下」
雪乃「そうね。あまり気が進まないけれど… 仕方ないわ。やつてあげましょう… ちよつと皆さん？なんでそのような笑みを浮かべてるんですか？」

深雪「雪乃さん、頑張ってくださいね！」

美琴「頑張りなさいよ、雪乃」

雪乃「もう… からかわないで、二人とも… 早く終わらせるわよ、黒ガヤくん」

八幡「黒歴史から取ったってバレバレだぞ… よし、じゃあせーのでやるか。せーのっ」

八雪「あでゆー！」